

1 事業名等(Plan 1)

事業名	救急医療体制整備事業											
所属名	市民保健部 医療課 地域医療対策グループ											
第七次総合計画	政策	2	「やさしさ」のあるまちをめざして	分野	5	健康・保健・医療	基本 施策	2	いつでも安心して医療が受けられる環境を整備する	施策	2	救急医療体制の整備
予算科目	4	1	4	地域医療対策	費	41410	救急医療施設運営費等運営費補助金の一部	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市救急医療施設運営費等補助金交付要綱、高山市医師確保等支援事業補助金交付要綱											
事業の実施主体	○ 市 市以外→ 飛騨市、白川村											
事業の実施方法	直営 指定管理 業務委託 ○ 団体等補助 その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	高山市民	受益者数	96,231 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	いつでも安心して医療が受けられる環境づくり		
概要	事業の実施手法、手順	救急医療体制の確保のため、休日診療所の運営や中核病院等への運営に対する補助金		
概要	事業始期・終期	始期	年度から	終期
概要	事業始期・終期		年度まで	設定なし ○
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 コンビニ受診防止に向けた啓発の継続			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
区分						
総合計画計画額(当初)		80,000	80,000	83,781	84,000	84,000
総合計画計画額(計画額)		100,000	100,000	83,781	84,000	84,000
事業費	予算額	84,906	98,696	83,191		
	決算・見込	73,117	91,292			
財源	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	受益者負担					
	繰入					
	(負担金等)					
	一般財源					
	繰入					
	繰入					
	繰入					
H17国勢調査	96,231 人 32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価				
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%			
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	760	949	
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	2,273	2,837	
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人			
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人			

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	補助等事業数	資料・出展	算出式	事業数 /	単位	件
	活動指標								
	活動指標								
活動・成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	市内中核病院救急患者数	資料・出展	算出式	救急患者数 /	単位	人
	成果指標								
	成果指標								

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	休日及び夜間の救急医療及び重篤患者の医療の確保が必要であるため。	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価 A
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	(判定理由)	小児夜間初期救急診療の開始など救急医療の確保のための支援を拡大したため。	減少 維持 増加 1	項目 ③成果面 拡大 ○ 維持 減少
				コスト・成果ポジション C 第3水準
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	(判定理由)	初期救急患者から重篤患者に対する救急医療が確保されているため。	拡大 1 維持 減少	

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点	適正な救急医療の受診に向けた啓発を継続する。
------------------------------	------------------------

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了
関係機関と連携して医療の確保を図るため、今年度の結果を捉え実施する。	
活動の方針	次年度の実施方針 同上

一次評価 主管課	III
判断の理由	小児夜間初期救急診療を新たにスタートするなどコストは上がったが、それに合った効果は上がっている。

総合評価	高 高 III
判断の理由等	「II」以上の水準に向けた改善が必要 休日及び夜間の救急医療の確保は、市民がいつでも安心して医療が受けられる環境整備のため重要である。今後も休日及び夜間の救急医療が安定して受けられるよう、事業を継続していく必要がある。また、救急医療の現場に過度な負担がかからないよう市民に対し24時間電話医療相談窓口の周知やコンビニ受診の防止に向けた啓発も併せて継続する必要がある。